

放射線科だより



令和4年11月11日
診療放射線科 渡辺 隆司

《四肢：外反母趾》

・ 外反母趾（がいはんぼし）とは？

母趾（足の親指）の付け根の関節が変形して小趾（足の小指）側に大きく曲がった状態を外反といい、変形した関節に負荷がかかることで炎症が起こり、腫れた瘤（バンオン）ができて痛みを生じます。進行すると歩行困難など生活に支障をきたします。中高年の女性に多く見られるためハイヒールが原因とされてきましたが、ハイヒールを履かない男性や子供にも見られることから、靴や靴下を常に履く生活習慣に、扁平足・リウマチ・日本人に多いエジプト型の足といった、病的・遺伝的な要因が合わさった、誰にでも起こりうる病気とされています。



あなたの足はどのタイプ？



エジプト型



ギリシャ型



スクエア型

日本人の70%はエジプト型といわれています。親指が一番長いエジプト型の足は親指に負担がかかりやすく外反母趾になりやすい傾向にあります。

・ 検査/診断

診断に関しては、医師による目視での変形の具合や痛みの有無で判定します。

レントゲン検査では足の親指の角度（外反母趾角）を測り重症度を調べます。

◎外反母趾角が

20～30度 軽度

30～40度 中程度

40度以上 重度

の外反母趾となります。

外反母趾角



レントゲン写真
(右足)

外反母趾は自然に治ることは無く、足全体が変形してしまうことでさらに親指に負担がかかり、症状はどんどん進行します。

治療は適切な靴を選ぶことや、サポーター・足底板・薬を使った保存療法と手術による治療が行われています。

